

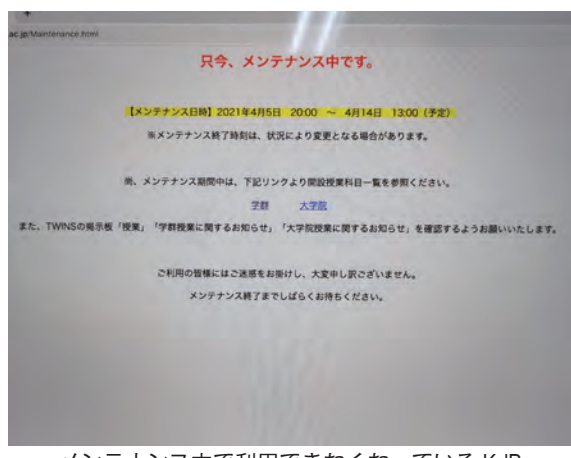
# 筑波大学新聞

**第363号**  
 編集責任  
 筑波大学新聞  
 編集委員会

TEL・FAX 029(853)6699  
 E-mail shinbun@un.tsukuba.ac.jp  
 月刊

発行所  
**筑波大学**  
 茨城県つくば市  
 天王台1-1-1

## 授業データベース不具合 履修登録期間中に9日間使えず



メンテナンス中で利用できなくなっているKdB (4月12日、本紙編集室で) =大和祐菜撮影

筑波大で開講される授業のデータベース「教育課程編成支援システム」(KdB)の利用が4月5日夜から同14日夜まで停止された。教育推進課によれば、5日午前からアクセスが急増し、システムに不具合が生じた。当初は2日間でメンテナンスを終える予定だったが、検索システムを根本的に見直し、再開が大幅に遅れた。KdBは授業のシラバス閲覧に使われており、新年度の履修準備を進める学生に影響が出た。一方で、情報メディア創成学類の新入生がKdBの代替システムを開発・公開し、話題となる一幕もあった。

(山田優芽)比較文化学類2年、中山友萌香)生物学類2年、12面に関連記事

学生からKdBへのアクセスは、春Aモジュールの授業セスが集中した4月5日の履修登録開始日だった。KdBと連動している教育情報システム「TWINs」も動作が遅くなったり、一時的に使用できなくなった。オンライン授業の多くは、事前に「TWINs」で履修登録しておかないと、授業のURLなどの情報が得られない。授業開始日の4月8日にオンライン授業を受けるには、7日までの3日間で履修登録し、授業が配信されるURLなどの情報を得ておく必要があった。

5日にKdBへのアクセスが集中したのは、授業のシラバスをKdBで確認してから、受講する授業を決めようとした学生が多かったためとみられる。対面授業は履修登録前でも教室に行けば授業を受けられ、その内容が分かるので、従来は開始日以降に登録する学生も多かった。オンライン授業が導入された昨年度は4月16日に履修登録が始まり、授業開始日の同月27日まで11日間の修習期間にアクセスが集中することとなった。今年度の修習期間にアクセスが集中することはないと、同課は今回の問題の発生を予想していなかった。

4月5・21日の履修登録期間中にシラバスを閲覧できなかったことで、学生からは「授業開始日までに時間割を組めなかった」「教科書を買うのが遅れた」といった苦情の声が上がった。同課によると、KdBのメンテナンスでは、検索結果が表示されるまでの処理プロセスを見直した。KdBでは科目番号や科目名などで授業を検索すると、該当する授業の科目名や授業方法、単位数などが表として表示される。メンテナンス前は、1回の検索ごとに、約10年分の授業情報の入ったデータベース内から科目番号や科目名などを抽出し、表に加えて表示していた。

メンテナンスでは、検索結果と表示にかかる時間が短縮できたという。同課の担当者は「KdBはメンテナンス後の仕様で運用を続ける。授業のオンライン化により、履修登録時にアクセスが集中することが分かった。学年暦を再検討し、履修登録開始から授業開始までの期間を2020年度と21年度の間で調整している」と話した。

安藤梢さん 体育系助教就任  
 「ツクリエイト」運営開始  
 バド女子 春季リーグ3連勝  
 新歓新たな取り組みも始まる  
 2年目のコロナ禍 学生生活は

注目記事

11 10 8 5 2

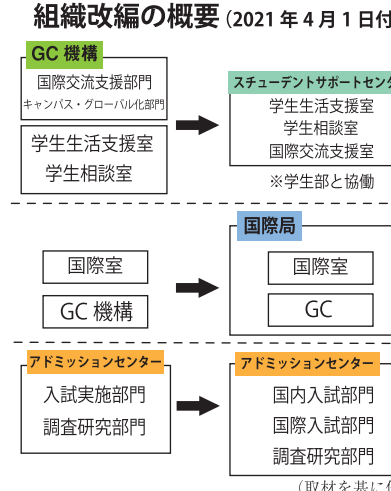
特集  
 1期生迎えて  
 総合学域群の可能性探る 6・7

ミニ特集  
 「〇つくば」転換期の今 3  
 学生で作る上げる自主研究発表会

## チューデントサポートセンター設置 留学のワンストップサービス提供

筑波大は4月1日付でチューデントサポートセンターを新設した。全学の学生の留学を一貫して支援するだけでなく、学生の国際交流に関する「ワンストップサービス」を提供する。同日付で国際局も新設した。国際室とグローバル・コモンズ(GC)を所管し、一体的に運用する。国際業務に対応できる職員の人材育成など大学の国際化を促進するという。また、アドミッションセンターに「国際入試部」を設けた。国際局と連携して外国人留学生募集活動などにあたる。

(寺尾優汰)比較文化学類2年



GCは今回の組織改編に伴い、グローバル・コモンズ機構から改称された。留学についてはこれまで

筑波大は今年度春学期に開講されている学群生向けの授業の約半数が、対面方式となったことが分かった。教育推進課が「教育課程編成支援システム」(KdB)に登録されているデータを基に集計した。同課は春学期の授業について「少なくとも3分の1程度は対面で実施できるような準備を進める」としていたが目標を上回ったことになる。

同課によると、春学期に開講されている学群生向けの授業は約3000科目。4月20日時点で、うち約2500科目について、日本人学生の留学のため、奨学金は学生部、海外への送り出しについてはGC、外国人留学生の生活支援は学生部が担当している。改編後はこれらの窓口をチューデントサポートセンターに一本化。センター内に新設した国際交流支援

室を中心に、学生部と連携しながら対応を進める。GCの一部の職員は同センターのスタッフも兼任し、同センターで学生の国際交流活動を支援する。アドミッションセンターはこれまで国内入試の広報

と実施を担当していた。国際入試部門は、外国人留学生獲得に向けた海外での広報活動や、外国人留学生が受験しやすい入試形態の調査などに取り組む。従来は、留学生向けの説明会や問い合わせ対応などが「学生部の国際交流について

では対面かオンラインかなど授業の方式がKdBの開講授業科目一覧に登録されており、このデータを集計した。一部の学生が対面で、他の学生が双方方向オンラインで受講するハイブリッド型などの授業形態も、対面実施として計算した。約半数が対面授業となったことについて、同課は「対面授業を求めている学生のニーズを踏まえ、各教育組織が時間割や教室配置の工夫をしたためではないか」としている。(山田優芽)

を国際室や各教育組織がそれぞれ実施していた。アドミッションセンターの担当者は「アドミッションセンターと連携・協力して国際化に関する業務を戦略的かつ効果的に遂行する」としている。

(中山友萌香)

東日本大震災から10年を迎えた今年3月、福島県いわき市薄磯地区の「いわき震災伝承みらい館」で震災語り部、大谷慶一さん(72)の話を聞いた。同地区は8月超の津波に襲われて、111人が犠牲になった土地だ。▼到達予想時刻になっても津波は来ず、自宅から数百メートル離れた海を見に行った。潮が引いて海底があらわになっていた。驚いて家に駆け戻り、近所のおばあさんを背負って逃げた。その途中、おばあさんが落ちてしまったが、置き去りにして走った。振り返ると、妻と知人の女性がおばあさんの手を取っていた。「ババの手を放せ」と、思わず叫んでいた▼妻と知人女性はおばあさんを手を助かったが、おばあさんは止まらなかった。行動は正しかった。さもないければ皆死んでいた。今はそう思う。でも、おばあさんを見捨てたという苦しみは消えない。しばらくは、誰にも話せなかった▼初めて口を開いたのは震災から1年後の夏だった。友人に泣きながら話すと、自然と肩の荷が下りた。「つらい気持ちを抱えてしまわずに、多くの人に伝えたい」。大谷さんは震災語り部になることを決意した▼10年後の薄磯地区は穏やかな砂浜に戻っていた。当時を想像することは難しい。だが、そこには復興に近づくとまらがあり、震災の記憶を語り継ぐとする人がいた。その思いを受け止め、伝えていくことが大切だ。海を見ながら考えた。

また、榎本はW杯のシンクロ板飛び込みで宮本葉月(近畿大)とペアを組み、8位になった。シンクロ種目は開催国枠が1枠ある。8位入賞の結果を受け、同連盟の選手選考委員会で代表に決定した。

榎本は「五輪が延期されたことで技術を高める練習期間ができた。自信を持ってW杯に臨めた。応援してくれた人のためにも、五輪ではダイナミックな演技を披露し、メダル争いに食い込みたい」と話した。

女子板飛び込みは5回の演技の合計得点を順位を競う。空中でひねりや宙返りなどの技を繰り出し、その美しさや入水時の姿勢、水しぶきの量などが評価される。シンクロ板飛び込みでは、2人が横に並んで演技する。演技の美しさに加え、同調性も評価される。

(中山友萌香)

東日本大震災から10年を迎えた今年3月、福島県いわき市薄磯地区の「いわき震災伝承みらい館」で震災語り部、大谷慶一さん(72)の話を聞いた。同地区は8月超の津波に襲われて、111人が犠牲になった土地だ。▼到達予想時刻になっても津波は来ず、自宅から数百メートル離れた海を見に行った。潮が引いて海底があらわになっていた。驚いて家に駆け戻り、近所のおばあさんを背負って逃げた。その途中、おばあさんが落ちてしまったが、置き去りにして走った。振り返ると、妻と知人の女性がおばあさんの手を取っていた。「ババの手を放せ」と、思わず叫んでいた▼妻と知人女性はおばあさんを手を助かったが、おばあさんは止まらなかった。行動は正しかった。さもないければ皆死んでいた。今はそう思う。でも、おばあさんを見捨てたという苦しみは消えない。しばらくは、誰にも話せなかった▼初めて口を開いたのは震災から1年後の夏だった。友人に泣きながら話すと、自然と肩の荷が下りた。「つらい気持ちを抱えてしまわずに、多くの人に伝えたい」。大谷さんは震災語り部になることを決意した▼10年後の薄磯地区は穏やかな砂浜に戻っていた。当時を想像することは難しい。だが、そこには復興に近づくとまらがあり、震災の記憶を語り継ぐとする人がいた。その思いを受け止め、伝えていくことが大切だ。海を見ながら考えた。

また、榎本はW杯のシンクロ板飛び込みで宮本葉月(近畿大)とペアを組み、8位になった。シンクロ種目は開催国枠が1枠ある。8位入賞の結果を受け、同連盟の選手選考委員会で代表に決定した。

榎本は「五輪が延期されたことで技術を高める練習期間ができた。自信を持ってW杯に臨めた。応援してくれた人のためにも、五輪ではダイナミックな演技を披露し、メダル争いに食い込みたい」と話した。

女子板飛び込みは5回の演技の合計得点を順位を競う。空中でひねりや宙返りなどの技を繰り出し、その美しさや入水時の姿勢、水しぶきの量などが評価される。シンクロ板飛び込みでは、2人が横に並んで演技する。演技の美しさに加え、同調性も評価される。

(中山友萌香)



競技中の榎本 = 本人提供

## 飛び込み榎本 五輪代表選出

### 板飛び込みとシンクロで



# 「経験を学生に伝えていきたい」 元なでしこ安藤梢選手 体育系助教就任



本紙のオンライン取材に応じる安藤さん(5月8日、つくば市天久保) = 大和祐葉撮影

元サッカー女子日本代表(なでしこジャパン)の安藤梢選手(38)が今年2月1日付で筑波大体育系助教に就任した。安藤助教は日本が初優勝した2011年ワールドカップ(W杯)と銀メダルを獲得した12年ロンドン五輪の中心メンバー。日独でプレーを続ける傍ら、18年にはサッカーの戦術を評価する手法の開発で博士(体育科学)の学位を取得していた。現在は浦和レッズレディースに所属しており、選手と教員の二足のわらじを履く安藤助教に話を聞いた。安藤助教は「研究成果やこれまでの経験を学生や若い選手たちに伝えていきたい」と抱負を語った。

(聞き手・大和祐葉 障害科学類3年、写真も)

— 助教就任の経緯は  
学位取得後も筑波大の非常勤研究員として研究を続けられていた。プロサッカー選手と両立できるか不安もあって、プレと研究の関係を決めた。

— プレと研究の関係  
あったが、「安藤さんだから教えられることがある」と周囲に背中を押され、就任を決めた。

現役サッカー選手で大学教員を務める人はなかなかいない。自分自身がバイオリンとしてしっかり背中を見ていくことで、後に続く人にとっても良い環境ができていく。女性アスリートの一つの在り方を示すことができればいいと思う。以前プレーしていたドイツではとても多くの女性が組織のトップに立っていた。日本も今後、女性が強いリーダーシップを発揮していくことが極めて重要だと思う。

— 福島県のサッカー施設「Jヴィレッジ」で、東京五輪の聖火リレー第一走者を務めたが  
コロナ禍で暗い世の中だからこそ、スポーツが人々に元気を与えることができると思う。11年には東日本大震災があり、「こんな状況で自分たちはサッカーをしてよいのか」と考えさせられた。だが、W杯では国民が一つになって応援してくれたことで、持っている

筑波大発ベンチャーのサナテックシード(東京都港区)は5月11日から、ゲノム編集技術で遺伝子を改造したトマト「シリリアンブルー・ハイギャバ」の苗の無償配布を始めた。血圧上昇を抑える効果のある成分「GABA(ギャバ)」の含有量が通常の5倍程度あるのが特徴だ。配布対象は事前に申し込みのあった約5000人。今後、契約農家での栽培も始め、今冬にもビニールハウスに加工して販売する予定だ。

(工藤和哉 生物資源学類2年、12面に関連写真)

このゲノム編集トマトを  
開発したのは、同社の最高技術責任者を務める筑波大の江面浩教授(生環系)だ。第1号となっていた。同社はゲノム編集技術への理解を深めてもらいたいとの思いをもち、何でどの助言をもらった。何でも取り入れてチャレンジしてほしい。

— 安藤 梢(あんどこうすえ)  
1982年生まれ。宇都宮出身。筑波大体育専門学群卒、同人間総合科学研究科博士課程修了。博士(体育科学)。学位論文のタイトルは「サッカー戦術技能の達成度評価のためのコンピュータ適応型テストの開発」。ポジションはフォワードで、現在は浦和レッズレディース所属。2011年W杯では全6試合に先発出場し、優勝に貢献した。



ゲノム編集したトマトを持つ江面浩教授(右)と、総合研究棟Aで撮影した大和祐葉

とじて、今年2月まで苗の無償配布モニターを募っており、全国から5000人を超す応募があった。モニターには、同社の関連会社がLINEなどを使い、施肥の仕方などの栽培支援も行う。モニター同士で栽培に関する疑問を共有することもできる。苗の配布と並行してトマトの一般流通を目指す。契約農家限定で苗を提供し、実った果実を全て買い取ることで、消費者への流通がスムーズになる。また、苗や加工食品の流通の際には、ゲノム編集したことを明示する。

江面教授は「消費者から大きな反響があるのは、ニーズに合った機能性食品を開発した結果。安全性についても、届け出前の国内の事前相談の際に確認を受けている。消費者の不安の声に対し、今後も情報提供と説明をしっかりと行っていきたい」と話している。

## 角川ドワンゴ学園と連携協定 「S高校」つくばで開校受け

筑波大と角川ドワンゴ学園は3月29日、高校、大学を通じたトップレベルの人材育成や教育・研究活動の充実を図ることを目的とした高大連携協定を結んだ。筑波大の教員が同学園の生徒に講義をしたり、同学園の生徒が筑波大の研究室を見学したりする予定だ。同学園は今年4月、つくば市内に通信制高校「S高校」を開校しており、S高の吉村総一郎校長は「筑波研究学園都市は教育の舞台として優れている。学園は生徒一人一人がやりたい学びができるよう支援する教育をしている。世界で活躍する人材やトップアスリートを多く育成してきた筑波大とは親和性が高い」と話している。

(三橋美音 教育学類2年、山田優芽、大和祐葉)

同学園は2016年4月、会を生き抜く総合力を身に付け、つづいていくことを掲げている。高校を開設した。インターネット上で配信する授業を中心とした「ネットの高校」で、「IT×グローバル」

得には、本校などで対面式の授業を年間5日間程度受けける。生徒数の増加でスクリーニングの受け入れ人数が限度に迫っていたこともあ

り、同じネットの学校として新たにS高を開校した。校舎は廃校となった筑波西中学校跡(つくば市作合)を再活用した。

昨年12月にはN高に在籍するトップアスリートの生徒に対し、筑波大の山口香教授(体育系)が「スポーツだけでなく学びを積み重ねることがキャリアの可能性を広げる上で重要になる」と講義した。また、麻見直美准教授(同)はアスリートに必要な栄養と適切な食事の取り方を伝えた。

同学園企画部の担当者は「まず、こうしたスポーツ分野の交流を継続的に取り組む必要がある。生徒からは『筑波大の研究者に指導を受けたい』といった声も上がっている。筑波大との連携を生徒の選択肢拡大につなげたい」と話した。

教授(体育系)が「スポーツだけでなく学びを積み重ねることがキャリアの可能性を広げる上で重要になる」と講義した。また、麻見直美准教授(同)はアスリートに必要な栄養と適切な食事の取り方を伝えた。同学園企画部の担当者は「まず、こうしたスポーツ分野の交流を継続的に取り組む必要がある。生徒からは『筑波大の研究者に指導を受けたい』といった声も上がっている。筑波大との連携を生徒の選択肢拡大につなげたい」と話した。

## 医学類生らワクチン接種 病院実習ある340人

筑波大医学群の学生への新型コロナウイルスワクチン接種が行われた。対象は6年生と看護学類4年生。4月19日と20日、10日と14日の2度にわたり、対象者368人のうち希望した340人が接種を受けた。残り28人は持病などを理由に接種を希望しなかった。これまで重大な副反応の報告は寄せられていないという。

医学群は今年1月、対象生にワクチンの効果や副反応に関する1時間ほどの動画を配信し、2月に接種希望調査を実施した。接種を受けた医学類の学生2人に話を聞いた。

森陽愛さん(医学6年)の話 昨年から新型コロナウイルスの話を聞いており、最前線で働く医療従事者の様子を見てきた。医師たちは手探りで治療法を探る中で、ワクチンに大きな期待をかけていた。同年代よりも先に打つのは申し訳ない気もしたが、ありがたいと思った。吉武沙和佳さん(同6年)の話 副反応が怖く、ワクチンを接種するか迷った。だが、実習先の病院は人の出入りが少ない地域にある。自分が感染してウイルスを持ち込む危険性を少しも減らすため、接種を決めた。1回目は、接種日の夜から翌朝にかけて接種した部分が腫れて痛かった。(車谷郁美 社会学類2年)

## 学位取り消し 元院生の盗用認定

学位論文の一部に盗用があったとして、筑波大は元大学院生の博士の学位と博士課程の修了を3月30日付で取り消した。元大学院生は2019年3月に筑波大大学院博士課程人間総合科学研究科を修了し、博士(医学)の学位を授与されていた。

研究企画課によると、元大学院生の博士學位論文について、盗用が疑われるとの発表が20年4月に寄せられた。筑波大の公正委員会は、調査委員会(委員長・加藤光保医学部医務系長)を設置して不正の有無を調査した。その結果、論文中の文章一件と画像一件について「他人の文章や写真を適切な表示なく流用しており、研究者としての基本的な注意義務を著しく怠った」と結論づけた。これを受け、教育研究評議会が博士の学位と課程修了の取り消しが決まった。研究公正委員会は調査報告書で、元大学院生の論文について「引用が正しく記載されていない場合は適正な論文となっていないと考えられる」とし、指導教員の確認が不十分だったと指摘した。

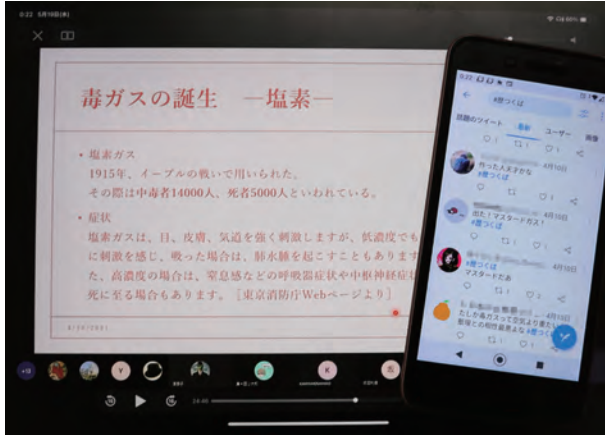
筑波大の永田恭介学長は「このような問題が発生したことは極めて遺憾であり、研究倫理に関する教育の強化など組織を挙げて再発防止に取り組んでいく」とのコメントを発表した。(及川千翔 人文学類2年)

# 筑波大生で作上げる自主研究発表会 「〇つくば」転換期の今

筑波大では「〇つくば」と呼ばれる自主研究発表会が定期的に開催されている。人文学類の学生が2018年4月、哲学に関する研究発表をする「哲つくば」を開催したことが始まりだ。その後、歴史や言語に関する発表会も始まり、今では10種類を超す。高校生に大学の学びを紹介するなど、活動の幅も広がっている。一方で、学生有志による活動のため、運営の引き継ぎに悩む〇つくばもある。〇つくばの行方はどうなるのか。模索が続く活動を取材した。(天野幸太、寺尾優汰、山田優芽、北川瑠菜、比較文化学類、小栗あおい、社会学類、中山友萌香、生物学類)

## 歴つくば

歴史に関する発表をする「歴つくば」第12回は4月10、11日の2日間、オンライン会議システム「Zoom」を使って開かれた。参加者は両日とも約25人。ツイッターで希望者を募り、計6人が「毒ガスと世界大戦」「中国の歴史認識」などをテーマに発表した。歴史に関することであれば内容は自由だ。〇つくばでは発表者を登壇者と呼ぶ。



オンライン開催される第12回歴つくばと連動する「#歴つくば」(5月19日、本紙編集室) = 山田優芽撮影

## 歴史に魅力感じて

19年に歴つくばを始めた丸山野太さん(令和2年度人文学類卒)は、「さまざまな立場の人が多様な目線で歴史を研究することを目的としている。歴史に魅力を感じる入り口になればいい」と語る。運営は今年度、新メンバー2人に引き継がれた。今後は、高校生に大学の学びを紹介する高大連携の活動にも取り組む予定だ。運営メンバーの1人、眞々田小太郎さん(人文学2年)は「高校の日本史や世界史では暗記要素が多く、苦学意識を持つ高校生も少なくないと思う。大学の歴史学では、複数の歴史観があることを理解しながら、自分が主体となって歴史を探究する。歴つくばを通して大学の学びの雰囲気を感じたい」と意気込みを語った。

## 学生主体の学びを

### 哲つくば

自分たち哲学徒が語る企画をやってみよう。2017年末のこと。人文学類哲学専攻の1年生たちが、授業後の雑談で交わした言葉が哲つくばの開催につながった。同時期に開催されていた「そうだな、哲学者に聞いてみよう!」現代思想の最新線」に着目した。その1人だった片山千波さん(令和2年度人文学類卒)が開催をツイッターで呼び掛けたところ、約50件更した。18年4月上旬に第1回を開催した。7人の学生が登壇し、中国哲学や西洋近代の政治哲学などについて発表した。「誰も来なかったらどうしよう」。直前まで片山さん

### 言つくば

「言つくば」は、言語学だけでなく分野を問わず「言葉」について発表し、研究を深めたいという人が集まる場を作った。その1人だった片山千波さん(令和2年度人文学類卒)が開催をツイッターで呼び掛けたところ、約50件更した。18年4月上旬に第1回を開催した。7人の学生が登壇し、中国哲学や西洋近代の政治哲学などについて発表した。「誰も来なかったらどうしよう」。直前まで片山さん

### 登壇者は語る

本間伸太朗さん(資源3年)は、生物分野の発表をする生つくばを中心に、地理つくばや交通つくば、歴史つくばなど5つの〇つくばに登壇している。「自分の専門は農学だが、さまざま分野の〇つくばで発表することで、多角的に専門分野を見ることができ、理解も深まる」と語る。ツイッターなどで発表について感想や意見をもらえ、これも楽しいという。本間さんは「発表を巡って議論が行われることで、新たな知見が得られたりする。それが〇つくばの魅力だ」と語った。台湾出身の劉承衛さん(比文4年)は、歴つくばに19年10月の第5回以降も連続して登壇している。一回連続で登壇している。劉承衛さんは「台湾についての発表を続けてきた。第12回は、中国と台湾で対立する歴史認識の違いについて紹介した。劉さんは「歴史を知ることが、異なる価値観を持つ人同士のあつれきを減らし、共感し合うことにつながる」と語る。

## 開催継続できず

### 音つくば 数つくば

数学に関する発表をする数つくばは2018年に1回、音楽に関する発表をする音つくばは19年7月までに2回開催したが、それ以降の活動はない。いずれも1人の運営者が宣伝から教室の手配、登壇者への連絡などをしていた。数つくばは運営者の大崎俊輔さん(情報4年)は「自分自身が多忙となり、運営に手が回らなくなった。運営仲間もいない中、1回目の参加者が約10人と少なく、次の開催のモチベーションが保てなかった」と語る。音つくばは運営者の西島侑太郎さん(社会学4年)は「登壇希望者はいるが、運営側として協力してくれる人はいない」と語る。大崎さんも西島さんも今年4年生で、卒業後の引継ぎは考えていないという。

### 地理つくば

地理つくばは「地理に苦手意識を持っている人にも、その面白さを知ってもらいたい」という目的を掲げている。現在は宮本さんをはじめ運営者が3人いて、SNS(ネット交流サービス)で広報に工夫を凝らしている。また、5月には運営や登壇の際のルールを定めた。参加者が誹謗中傷をした際の対応方針や、登壇者のプライバシーに配慮して録画の拒否権などを明記し、安心して参加できる会を目指している。

## 広報活動にひと工夫



公式ツイッターで地理つくばへの参加方法を説明する(5月19日、本紙編集室) = 山田優芽撮影

## 会の存続か 発表の質か

掛けた学生が主に登壇しての新人生に興味を持ってもらうようにした。また、歴つくばと同様に開催日や内容をパンフレットにまとめ、人文学類のオリエンテーションで配布した。今後、ウェブサイトを開設したり、過去の発表会の様子をネットに公開したりするなど、広報活動を充実させる予定だ。だが、宮腰さんは「多くの人に見てもらいたいが、言つくばを残すために、発表内容を分かりやすくすることなどは考えていない」とも語る。

## オンライン開催がもたらす期待

〇つくばは当初、大学の教室で開かれてきたが、コロナ禍でオンライン開催に切り替わった。初のオンライン開催は2020年4月の歴つくばで106人が参加した。他の〇つくばも続いた。ただオンライン映像の記録については、〇つくばごとに対応が分かれる。歴つくばや生物つくばに関する生つくばなどはアーカイブ化している。一方、哲つくばなどは、参加者がオンラインでの配信は続けた言をしやすいように、録音している。

「〇つくば」は今年度、片山さんから細野良さん(比文4年)に運営が引き継がれた。細野さんは「自分ができることをしていきたい。ネットでのライブ配信ができるサービスを用い、ラジオ形式で開催するなど新たな取り組みを模索している」と語った。運営者交代後初となる第8回は5月30日に開催され、西洋哲学やインド哲学などについて、学生が発表する予定だ。

# 記者の声



天野隼太

## 少年野球のモデル 筑波大発で 科学に基づいた指導が鍵だ

### 野球肘防止

【8面に関連記事】高校野球では昨春から、公式戦で1人の投手が投げられる球数は「1週間500球」の制限が設けられた。投げすぎによる肩や肘のけがを防ぐ狙いがある。投球制限は少年野球でも行われている。

だが、投球数制限だけでは、けがを防ぎきれない。科学的に、小学生のころから、体の成長に合わせた科学に基づいた指導と、けがを見つけた検査体制を整備する必要があると考える。

保護者が多いことに驚いたが、特に深刻だと思ったのが指導の在り方だった。休みのない練習や子供の成長段階を顧みない指導は野球肘の原因となる。ボールの投げすぎや不適切な投球動作による発症するだけでなく、重症化する。将来野球がでなくな

る可能性がある。取材では、その問題解決に向けた日々奮闘する筑波大関係者の姿も追った。その一つが、川村卓准教授(体育系)が率いる筑波大学院野球コーチング論研究室(野球研)の活動だ。野球研は野球の技術的な研究に加え、文字通り、指導の仕方を研

究するコーチング論が大きなテーマだ。大学院生らは高校の野球部や少年野球クラブにコーチとして参加し、研究で得た最新の知見を実践している。そのうち、私が取材したつくば市の春日学園少年野球クラブでは、野球肘を防ぐため、選手

同クラブでは、肘が下がる選手もそのままにしている。更に筑波大の研究者は、野球肘を早期に見つけ出すための取り組みも行っている。岡本嘉一講師(医学医療系)は、小型のMRI(磁気共鳴画像化装置)を搭載した車で球場を巡り、無

限りそれを認めないことは差別に当たるとした。だから、伊是名さんが駅に対応を求めたこと自体は責められるものでも何でもないし、駅が過度な負担であることを理由に断るのも問題ない(過度な負担かどうかは争う余地がある)。しかも、現行の障害者差別解消法では民間事業

族、外国人など、多くの市民が移動の利便性・安全性を享受できる。問題は資金面だ。改修費の一部に税金が充てられてもなお、利用者の少ない駅のバリアフリー化は鉄道事業者の採算に合いづらい。市町村は、沿線住民や沿線に立地する企業といっ

たステークホルダーと協力し、持続可能な公共交通を維持するため主体的に活性化・再生に取り組む努力が欠かせない。また、バリアフリー化が実現するまでの間、鉄道事業者には「合理的配慮」の提供にあたって駅員が自ら対応するだけでなく、

# 筑波時評

## バリアフリー化 車椅子ユーザーの移動ニーズ 全ての人が共生する社会に

伊是名夏子さんの「JRで車いすは乗車拒否されました」というタイトルのブログは、バリアフリー化の政策目標があるが、アフォービリティが進んで、車椅子ユーザーが直面する困難をリアルに示した。伊是名さんが経験したのは、法と施策からこぼれた場所での障壁だった。ポイントは大まかに二つある。

1点目は利用者が少ない駅であったことだ。バリアフリー法が既設の旅客施設・車両等に求めるのはバリアフリー基準への適合の「努力義務」だ。利用者

3000人未満の駅のバリアフリー化は数値目標が設定されておらず、2020年3月末時点

リアフリー化されていない駅ではその恩恵を受けられない。すべての人は移動の自由に関する権利がある。障害者以外の

者による合理的配慮の提供は努力義務に過ぎない。ネット上の「やり過ぎだ」「駅員の負担が大きい」などの伊是名さん個人への批判は的外れだ。

今後の道筋の一つは、やはりバリアフリー化だ。個別に対応せずとも移動が可能になり(事前の改善措置)、障害者だけでなく、高齢者、乳幼児を伴う家

族、外国人など、多くの市民が移動の利便性・安全性を享受できる。問題は資金面だ。改修費の一部に税金が充てられてもなお、利用者の少ない駅のバリアフリー化は鉄道事業者の採算に合いづらい。市町村は、沿線住民や沿線に立地する企業といっ

たステークホルダーと協力し、持続可能な公共交通を維持するため主体的に活性化・再生に取り組む努力が欠かせない。また、バリアフリー化が実現するまでの間、鉄道事業者には「合理的配慮」の提供にあたって駅員が自ら対応するだけでなく、

者による合理的配慮の提供は努力義務に過ぎない。ネット上の「やり過ぎだ」「駅員の負担が大きい」などの伊是名さん個人への批判は的外れだ。

大村 美保 助教 (社会福祉学)



筑波大学人間系 博士(社会福祉学)。全国社会福祉協議会、国立のぞみの園研究部を経て2015年より現職。現場経験に障害者施設指導員、相談支援専門員など。

# 反射鏡

## 女らしさ、男らしさを求められていると感じたことは？

男の子用・女の子用に分けられたおもちゃ、男女別の制服、女らしい・男らしい振る舞い……。ジェンダーの固定観念は日常のいたるところに潜んでいる。だが近年、ジェンダー差別をなくそうとする動きが広がっている。筑波大生は、女らしさ・男らしさを求められた経験はあるのか。ジェンダー差別をなくすにはどうすればいいのか。第二エリアなどで聞いた。天野隼太、山田優芽、比較文化学類2年、北川瑠菜、同3年、車谷郁美、社会学類2年

【心理1年・女性】 と感じたことはない。だが、宿舎への引っ越しを済ませ、女性でご飯に行った時に、親と別れる際に「女を使うと多く支払ったことの子なんだから家事ができがある。おごるのは男性のようになるべきではない」と言われた。何気ない言葉だったが、女らしさを【障害4年・男性】求められた気がして傷ついた。こうした固定観念は、自分を感じたことがない。【心理3年・男性】 自分は感じたことがない。【障害4年・男性】 自分は感じたことがない。【心理3年・男性】 自分は感じたことがない。



イラスト=後藤佳怜(社会学類4年)

## 「コロナ2年目の授業はどう思う？」

コロナ禍で授業がオンライン中心となってから丸1年が経過した。教育推進課によると今年度春学期は約5割が対面授業という。だが、所属や学年などによってその比率は異なる。筑波大生は今学期の授業形態をどう捉えているのか。中央図書館前で聞いた。川千翔、細井真生、人文学類2年、山田優芽、比較文化学類2年、三橋美音、教育学類2年

【文科2年・男性】 受講している。移動の必要がなくて、負担が少ない。【国際2年・女性】 オンラインが約7割で、対面が約3割。授業の直後に対面授業がある。【生物2年・女性】 対面と同時双方向の授業が必要。移動が大変。【生物2年・女性】 対面と同時双方向の授業が必要。移動が大変。

【生物3年・女性】 小さい頃から「男の子だから泣くんじゃない」と言われてきた。幼少期からの影響がジェンダーの固定観念を身につけてしまった。【生物4年・男性】 中学校の時は共学で、誰かに強制されているわけでもないのに、女らしい話し方や歩き方を無意識に心がけていた。高校は女子高で男子がおらず、女性であることを意識せず過ごせた。【人文1年・女性】 高校の卒業式で、男子は手を握り足を少し開く、女子は手を開き足を閉じて座るよう指導された。男女で分けるのではなく、個人が選択できるような柔軟な対応が必要だ。

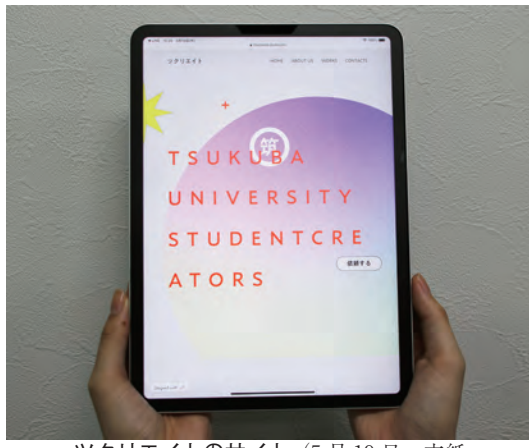
【国際2年・女性】 昨年から変わらないうえに、オンライン授業が6割ほど。発言を求められる。【国際2年・女性】 昨年から変わらないうえに、オンライン授業が6割ほど。発言を求められる。【国際2年・女性】 昨年から変わらないうえに、オンライン授業が6割ほど。発言を求められる。

【社工1年・女性】 体育以外オンラインだ。基本的にはカメラオフのため、学生の反応が見えず、難しい。【社工1年・女性】 体育以外オンラインだ。基本的にはカメラオフのため、学生の反応が見えず、難しい。

# 「ツクリエイト」運営開始

## 学生クリエイターの活動後押し

展示会などのイベントが中止になるなど、学生クリエイターの活動もコロナ禍で制約を受けている。そんな中、筑波大生たちが中心に13人の学生が在籍する「ツクリエイト」を発足させた。つばは市内の企業や団体が開くイベント関連の仕事などを引き受けるという。



ツクリエイトのサイト(5月19日、本紙編集室で) = 北川瑠菜撮影

ツクリエイトには現在、芸術専門学群の3年生を中心に13人の学生が在籍する。写真やイラスト、ロゴデザイン、ウェブ制作などの仕事に対応できる。プロジェクトはつばは市内の企業などで行っている。同プロジェクトはつばは市内の企業などで行っている。同プロジェクトはつばは市内の企業などで行っている。

より手頃な価格設定で、学生ならではの視点を生かした制作を目指すという。現在は、9月につばは市内で実施予定のイベント「つくばアートサイケルプロジェクト」に関連した仕事を手掛けている。同プロジェクトはつばは市内の企業などで行っている。

生は、先輩と一緒に仕事をすることで、経験値を上げることができる。代表の田中陽さん(芸専3年)は学生クリエイターが専門技術を生かして報酬を得ながら、技術も向上していけるような仕組みを作りたいと話す。

アートサイケルプロジェクトの仕事に加わる井野千聖さん(同3年)は、「チームで取り組むため、困った時に相談ができる。金銭面の問題も、複数人で対処できるので安心だ。自分の作品が良い評価をもらえ、依頼者のニーズにしっかり応えられた時にやりがいを感じる」と話した。

学群1、2年生から新たなクリエイターを募集し、7月からは運営を本格化させる予定だ。田中さんは芸術専門学群全体のレベルを上げつつ、学内外に幅広く貢献していくことがチームの目標だ」と語った。(三橋美音、中山友萌香)

# 待ちかねた音色響く

## ギター・マンドリン部「新歓コンサート」

筑波大学ギター・マンドリン部の「新歓コンサート」が4月28日、5C棟で行われた。同部が観客を入れて演奏会を開くのは1年2カ月ぶり。昨年の同コンサートと今年2月の定期演奏会は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となっていた。部員10人が5曲を披露した。



「A Whole New World」を演奏するギター・マンドリン部の部員ら(4月28日、5C棟で)

1曲目はマンドリンの独奏曲「Jump」。マンドリン奏者の青山涼が作曲した。序盤から軽快なメロディーが続く。マンドリンの張りのある高音が響いた。素早い指さばきが疾走感を、マンドリンの明るい音色が爽やかさを演出した。ラストを飾ったのは、平原綾香の歌でも知られるホルスト作曲の「Jupiter」。4種類の楽器を9人が奏でた。ゆったりとした曲調が始まり、マンドリンやギターの柔らかい低音とマンドリンの鋭い高音が重なった重厚感のある音色が会場を包みこんだ。部長の和田尚志さん(地球3年)は、「歌詞が付けられた曲の場合は、そのイ

### 写真部新歓展示会

2年ぶりの学内展示 筑波大学写真部の「新歓展示会」が4月5、28日に筑波大附属中央図書館で開かれ、部員13人が14作品を出品した。春の野花や筑波大構内の紅葉、通勤前にベンチで本を読む男性やソファで眠る猫など、モノクロ・カラーの多様な作品が並んだ。昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ネットでの作品紹介となったため、学内での展示は2年ぶりとなる。

例年は、春や大学などをテーマに新入生に向けた作品を撮影、展示している。今年はコロナ禍で写真を撮影する機会が少なく、部員がこれまで撮影した写真の中から自由に選んだ。写真はいずれもA4サイズで、図書館2階のギャラリーゾーンで展示された。田中美和さん(人文3年)の「春と未来」は、満開に咲いている桜をバックに立つカーフミラーを写した。写真には「あなたの未来が見通しの良いものであることを願って」というキャプションが付いている。田中さんは「桜が写り込んでいないカーフミラーから未来が見える気がした。これから始まる新入生の大学生活が充実したものになることを願った作品だ」と話した。(細井真生)人文学類2年、写真も)

文化祭や体育祭などのイベントに向けて準備を進めるうちに恋仲になるが、すぐに別れてしまう……。宿舎祭(やどかり祭)に限らず、あちこちの春の思い出。だが、宿舎祭の事例のみを指す語が存在することこそが特筆すべき点だ。入学間もない学生の「出会いの場」の役割を宿舎祭が担っているため、略



### 解説



例年宿舎祭では学群・学類などが制作した御輿が披露されていた(2019年6月1日、平砂宿舎エリアで)

やどかりマジック【やど祭りマジック】(名) 筑波大学宿舎祭(やどかり祭)をきっかけに学生が交際を始めること。やどかり祭では例年入学して間もない1年生が協力して屋台を出すため、関係が急接近しやすいとされる。一般にやど祭りマジックで誕生したカップルは長続きしないとされる。称を冠した言葉が学内で定着したのだろう。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、宿舎祭は2年連続の中止となり、来年度以降も実施できるかは見通せない。「やど祭りマジック」は過去のものとなってしまっのか。新型コロナウイルス「キャンパス」にどのような影響を与えるのか注目される。(西村大祐)人文学類4年、写真も)



田中さんの作品「春と未来」(4月26日、中央図書館で)

◆おひわの 「芸術の森」は休みました。



青柳悦子 教授(文学理論)

人文社会系・教授。筑波大学院博士課程文学・言語研究科文学専攻修了。博士(文学)。筑波大学講師などを経て、2008年より現職。

大学生になって初めて一人暮らしを始めた私にとって、起きて、食べて、着替えて大学に行くのも、1カ月の生活費をやりくりするのも、一つ一つが逸話に満ちた冒険になった。どうみても平凡でしかない行為を成すことが、一人前の人間として生きているという自信につながっていた。大仰に言えば、自分が日常を送るのそのことだけで人類の営みに参画しているのだ、と感じていた。

勉強の面では、文学や哲学に興味を持っていた私は、国内外の小説作品という学問が、言語学を物理的な音声として見る

『一般言語学』 ロマーン・ヤコブソン 著 や、文学評論、また思想書などを読みあさっていた。だが読むべきものは無限にあり、謙虚な学生時代の私は、果てのない作業を前に絶えず徒労感や自分の卑小さへの絶望感に苛まれていた。

大学2年の時に、ヤーコブソンという名を知った。言語学の中に、それまでにはない「音韻論」という分野を打ち立てた研究者だ。まずこのことに衝撃を受けた。学問とは受け継ぎ深化させていくものであって、新たに創出できるものとは思っていなかったからだ。そして「音韻論」という学問が、言語学を物理的な音声として見るのではなく、人間にとって意味を持ったカテゴリーと捉えるところから出発する学問であることを知った。意味はどのようにに成立しているのか、私たちがそれなしには一日たりとも生きてはいない意味のやりとりとはいかなる現象なのか、ここに目を向ける問題意識は根源的な人間愛に裏打ちされていると感じた。

メーツを壊さないよう、滑らかに演奏することを心掛けた。演奏会の曲の構成は独奏から始め、徐々に演奏者が増える流れにした。終盤にかけて盛り上がりを観客に届けられた」と話した。鑑賞した情報メディア創成学類1年の学生は「独奏の指さばきや、最後の曲の迫力に圧倒された。同部の新入生向けの楽器体験は既に参加していたが、合奏になった時の音色や雰囲気を知ることができて良かった」と話した。(北川瑠菜)比較文化学類3年、写真も)

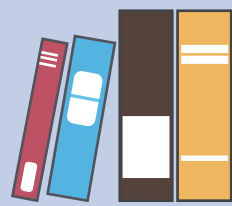
4月の終わりに5月にかけて、大学の近くの道に藤の花が咲く。手入れのされていない道は街路樹や電灯に無造作に絡まり、重さに耐えかねて歩道まで迫ってくる。藤棚に整然と並んだ花も良いが、新緑の中に突然現れる野生の藤は力強さがあって好きだ。春が終わる、初夏が来るまでの短い間に散ってしまうのを惜しみ、花が終わるまで何度も見に行きた。(廣間菜月)比較文化学類3年、写真も)

### 短歌

熊蜂は花の一粒めかけ飛び来る 藤の枝ひくく枝垂れて

4月28日、つばは市春目で

# 学問的な俯瞰をしながら専門分野を定める 1期生迎えた総合学域群の可能性探る



「未来を生きる皆さんは、専門分野のみならず幅広い分野に触れ、新たな社会の方向性を切り拓く能力を身につけてほしい。永田恭介学長は筑波大の入試案内でこう語る。そんな期待を担う1期生を迎え、4月に本格始動したのが総合学域群だ。専攻を決めずに入学し、1年かけて学類・専門学群を導くという試みは、どう開花するのか。総合学域群長や識者、新入生らを幅広く取材し、同学域群のこれからを展望した。(及川千翔)人文学類、北川理菜(比較文化学類、東谷都実(社会学類、三橋美音(教育学類、大和祐菜(障害科学類、工藤和哉(生物資源学類)

## 24の学類・専門学群に移行可能

総合学域群は今年度、筑波大の新入生2132人の2割に当たる420人を第1期生として迎えた。総合学域群は今年度、筑波大の新入生2132人の2割に当たる420人を第1期生として迎えた。総合学域群は今年度、筑波大の新入生2132人の2割に当たる420人を第1期生として迎えた。

## 山中学域群長に聞く

総合学域群での学びの意義や学生を支えるサポート体制について総合学域群長の山中弘特命教授に聞いた。(聞き手・及川千翔、北川理菜、東谷都実)

「やりたい分野見つけて、総合学域群では、学生が広い学問領域から自由に科目を履修することができ、すなわち1年の時から本当の意味で文理を問わずに学問的な学びが期待できる。」



取材に応じる山中学域群長(5月12日、1C棟で)＝及川千翔撮影

「やりたい分野見つけて、総合学域群では、学生が広い学問領域から自由に科目を履修することができ、すなわち1年の時から本当の意味で文理を問わずに学問的な学びが期待できる。」

「2年次の移行先は、学生の成績による受入順位と学生自身による移行先の志望順位の組み合わせで決まる。」

「期待より自由度低い」

## 総合学域群生の声

### 期待より自由度低い

1類の山本佳奈さんは「日本語と日本文化を学ぶことは、人を総合学域群から、残り20人は推薦やAC入試で受け入れることにした。」

### 成績評価にプレッシャー

3類のAさんは、高校2年生の時に参加した大学説明会がきっかけで、情報メ

### 山本さんの時間割(春A)

月	火	水	木	金
1	社会学の最前線	フィールド文化領域比較文化研究	基礎体育ダンス(春)	基礎スペイン語B1
2		英語I	フレッシュマン・セミナー	英語プレゼンテーションI
3	情報リテラシー(演習)	英語リーディングスキルI		国際学II
4		基礎スペイン語A1		
5		学問への誘い	共生のための日本語教育	
6				

### 「11学類に移行できる」

3類の澤口菜さんは幅広い学問分野に興味があり、入学時に専攻を決めない学問部に進学したいと考えている。模試の成績も考慮し、野に触れ、専攻する学問を

### Aさんの時間割(春A)

月	火	水	木	金
1	知識情報概論	情報リテラシー(講義)	英語プレゼンテーションI	
2			基礎中国語B1	
3	国語I	基礎体育ジョグ&ウォーク(春)		数学リテラシーI
4		フレッシュマン・セミナー		
5	基礎中国語A1	数学リテラシーI		
6	英語リーディングスキルI	学問への誘い	情報数学A	情報メディア入門

「期待より自由度低い」

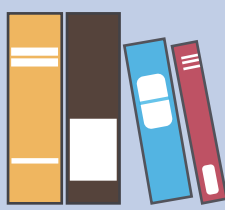
「期待より自由度低い」

「期待より自由度低い」

「期待より自由度低い」

「期待より自由度低い」

「期待より自由度低い」



# Hello! 先端研究



奥脇亮助教

地震がなくても、地球は常に揺れ動いている。大気や海洋の動きに呼応した揺れ、水河の崩壊や地滑りなどさまざまな原因がある。地震計はこれらの揺れも記録しているのだが、普通の地震に比べるとそのシグナルが微弱な場合が多く、ノイズとして埋もれてしまいがちだ。

## 「希望する学類併願できていない」7割が回答 新入生アンケートで

総合学域群の新入生を対象に本紙は4月17〜22日、いなかつたが27人(20%)ウェブ上で「総合学域群」に関するアンケートを実施した。URLを総合学域群のLINEオープンチャットに送信し、1,307人(1類56人、2類45人、3類36人)から回答があった。

総合学域群に入学した理由を聞いたところ、「進みたい学類は決まっているが、総合学域群からの方が進みやすいと考えた」との回答が53人(39%)で最も多かった。「複数の学類に関心があり、絞り切れない」と回答した学生も26人(19%)いた。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

「志望する学類に進めるかどうか不安」と回答も102人(74%)あった。総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

## 有識者の声



福留東土教授

有識者は入学時に専攻を決定しない総合学域群の在り方についてどう見ているのか。東京大の福留東土教授(教育学)に聞いた。

総合学域群のような入学時に専攻を決めない学域は、東京大の福留東土教授(教育学)に聞いた。総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

## 地震波形から地滑りを検出

## 発生源をリアルタイムで特定

複数の観測地点で地震波の到達時刻が検出できれば、その時間差から、震源を推定することが可能だ。

しかし、地滑りの場合は、通常の地震よりも周期がとて長い(振動がゆるゆると生じる)地震動が生じることが多く、

る学生は、大学に関する知識が乏しい高校生の時点で専攻を決定しなくてはならない。大学に進学してから自分の専攻と異なる分野に強い関心を持って、柔軟性のない日本の大学システムでは、学部・学科を変更することが難しい。

総合学域群のような入学時に専攻を決めない学域は、東京大の福留東土教授(教育学)に聞いた。総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。



Okuwaki et al. (2021) (画像は奥脇亮助教提供)

## 時間割システムで履修支援

文理問わず幅広い学びを重なることで、学類・専門法について議論したり、定員に柔軟性を持たせたりする工夫が求められる。

総合学域群のように一つの学群に文理問わず学生が集まり、多様性が生まれるのはとても良いことだ。多様な学生と交流し、刺激を与え合って人間的な成長に役立ててほしい。総合学域群を志す学生はさまざまなことに興味があるだろう。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。



## 手紙



藤井清美さん

10代の終わりから20代の初めという人生のとても大切な時期をわたしと同じ大学で過ごす皆さんに、こうして言葉を届ける機会をいただき、感謝しています。

今回はあえて「手紙」にこだわらせていただきました。わたしは東京で映画鑑賞と美術鑑賞と観劇さんまいで過ごしたことが、何より友人としゃべり倒したことが8割がた語れます。

わたしは東京で映画鑑賞と美術鑑賞と観劇さんまいで過ごしたことが、何より友人としゃべり倒したことが8割がた語れます。

## 自身の経験「誰か」の足しに

だが、このシステムを使うと、各学類の応募要件となる科目や重点科目の開設される時間の重複を極力減らし、総合学域群の学生の移行先の併願可能性を最大化することができる。

吉瀬教授は18年秋から開発に取り組んだ。午前に開講してほしい「二つの科目が開設されるモジュールの順序を考慮してほしい」などの各教育組織からの要望も取り入れ、20年秋にシステムを完成させた。専門科目を配置する学生表彰を受けた。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。

総合学域群では、1年間の学びを経て移行する学類を決める。希望がかなうか多かたは、「複数の学類にどうかは、履修科目の成績評価が多く影響する。このため、取りたい授業より良い成績を取れず、学類を優先した」と回答した学生も13人(9.5%)いた。



昨年6月25日に発行された小説「京大はんと甘いもん」

脚本家・演出家・小説家 藤井清美さん

わたしは一人の先輩のたわぶです。笑っていい。でも、「誰か」の足しになれば幸いです。(平成5年度人文学類卒業写真はステラキャスティング提供)

# 野球肘検診を球場で

## 車に小型MRI搭載

### 野球

### 少年野球への挑戦



ボールの投げすぎや不適切な投球動作で生じる肘関節の障害が「野球肘」だ。重症化すると野球を断念せざるを得ない場合もある。子供たちの野球肘を防ぐべく、筑波大の研究者たちが協力して開発した「MRI（磁気共鳴画像化装置）検診車」が、少年野球の現場

で大活躍している。今年4月25日の朝、寺田康彦准教授（数物系）は、自ら開発した小型MRIを搭載したミニバンを運転し、つくば市谷田部の野球

場に到着した。MRIは約50立方センチメートルの大きさで、肘の内部の様子を高い精度で撮影できる。この日検診を受けたのは、一般社団法人「つくばベースボールクラブ」の中学部（中央シニア）に所属する中学一年の男子選手15人。練習の傍らで、順番に車内に呼び込まれていく。MRIの中に利き腕を

入れて数分待つと、角度を変えて撮影した複数の画像がパソコンのディスプレイに浮かび上がる。画像を診断するのは、放射線診断専門医の岡本嘉一講師（医学医療系）だ。計5時間の検診で、選手1人の肘関節の外側に白い影があるのが分かった。骨の一部が剥がれかけている恐れがある。岡本講師は、選手の父親に画像を見せながら「野球肘の疑いがあります。病院で精密診断を受けたい方がいます」と語りかけ、筑波大附属病院の整形外科を紹介した。

野球肘は、発生場所などによって痛みが出方が異なる。初期に痛みを感じると、上げ、最後は21-19と逆転して2ゲームを連取した。第2ダブルスでは山下彩海（同4年）・矢島春菜（同2年）のペアが相手のスマッシュを防ぎきれず、ゲームカウント0-2で敗



撮影された肘の画像を確認する岡本講師（中央）（4月25日、つくば市谷田部で）

球肘の危険性が高まる練習をしている選手が多いことに気づき、「将来が閉ざされてしまう子供を一人でも減らしたい」と考えた。一般的な野球肘検診は超音波を使うが、MRIは超音波では分からない、肘のより内部の症状を見つけて出すことができるという。開始から5年間は、総合研究棟D棟にあるMRIを用い、約700人の球児らを見てきた。だが、日時の調整や大学までの移動は、保護者への負担が大きかったという課題があった。

「自分が球場に行くと診察すれば、一度に多くの子供たちを検診できる」。そう考えて構想したのが「MRI検診車」の開発だ。そこで18年、MRIの小型化を研究している旧知の寺田准教授に協力を求めた。MRIを小型化すると、外部の磁場がノイズとなって画像が劣化する。寺田准教授は、ノイズを防ぐシールドに工夫を加え、小型MRIの実用化に成功した。小型MRIを搭載する車両はクラウドファンディングで賄った。寄付総額は当初目標としていた70万円の倍の140万円が集まった。こうして小型MRI搭載検診車が誕生し、「世界でも初の試み（寺田准教授）となる出張野球肘検診」が19年4月に始動した。

昨年は新型コロナウイルスの影響で検診ができなかったものの、開始から3年約2000人の選手を検診し、約10人が野球肘の疑いありと診断された。検診結果は、野球肘の早期発見と病態解明のためのデータとして岡本講師の研究にも生かされるため、検診は無償となっている。

検診を受けたつくばベースボールクラブの堀田哲也代表は「病院で検診を受けると、金銭的にも日程的にも保護者への負担が大きいの。球場で一度にチーム全員を無料診断してもらえるのはありがたい」と話す。検診を受け、異常なしと判断された選手の父親は「子供にけががなく安心した。自分も高校球児だったが、現役時代にもあればよかった」と話していた。検診車の活用について岡本講師は「検診車は肘以外も撮影できる。他の少年スポーツにも活用し、スポーツ障害の早期発見に貢献していきたい」と語る。

【水郷体育館（茨城県土浦市）で遠子内早紀II教育学類4年、工藤和哉II生物資源学類2年、12面に関連写真】関東大学春季リーグ戦が4月17-25日に行われた。5月にも試合が予定されていたが、参加チームに新型コロナウイルス感染者が発生したため、リーグ戦は中断された。中断前の4月終了時点で筑波大女子は3戦全勝と、好調な滑り出しを見せた。中断されている第4戦、5戦が行われるか中止となるかは決まっていない。

### バドミントン

筑波大は4月25日の第3戦で青山学院大と対戦し、3-2で勝利した。第1シングルスで勝利を収め、迎えた第2シングルスには溝口なつめ（体専3年）が登場。強烈なスマッシュで相手を圧倒し、21-8で第1ゲームを奪った。第2ゲームも序盤リードした。相手の前後に揺さぶる攻撃で一度追いつかれたものの、積極的な攻めをみせ21-14で振り切った。続く第1ダブルスでは、青木もえ（同1年）・長廻シユで相手を圧倒し、21-8で第1ゲームを奪った。第2ゲームは後半にミスが続き、一時は6点あったリードを2点差まで詰められたが、21-18で逃げ切った。第2ゲーム前半は、相手の攻撃に押される展開となった。しかし、青木の強力なスマッシュなどで追い



第1ダブルスで攻防を繰り広げる青木（右）・長廻ペア（4月25日、水郷体育館で）=遠子内早紀撮影

第3シングルスは青木が退場。第1ゲームは一進一退の激しい攻防の末、22-24で惜しくも先取された。第2ゲームは相手の攻撃がささ、0-2で敗れた。大学生として初の大舞台となった青木は「緊張したがチャレンジ精神を持って挑み、ダブルスでは勝つことができた。シングルスは途中で受け身になったことが敗因だ」と分析した。主将の山下は「目標のインカレ優勝に向けて、油断せずこれからもしっかり勝ちたい」と語った。吹田真土監督（体育系・助教）は「コロナ禍で大会も限られている。一戦一戦を大切に、団体戦に臨みたい」と語った。

## ギフトテイニングで運動部支援

### 選手と卒業生をつなぐ

筑波大は今年3月、運動部の活動をサポートするために、インターネット経由でファンからの支援を集めるギフトテイニングサービス「エンゲート」を導入した。ファンはエンゲートのサイトでポイントを購入し、応援するチームや選手の好プレーや活動に「デジタルギフト」として支援を贈ることができる。

「エンゲート」はエンゲート社（東京都中央区）が2018年に始めたサービスで、ファンは100円単位（1ポイント）でポイントを購入する。スポーツに特

化しており、プロ野球やJリーグのチームなども活用し、乗りに出している。大学が包括導入するのは日本初という。今回の事業は筑波大学アシスタントパートナーメント（AD）が主導した。第一弾として、ADに加入する男女のハンドボール部、硬式野球部、男子バレーボール部、蹴球部と男子バスケットボール部を加えた6チームが参加した。このうち最も積極的なのが男子ハンドボール部だ。エンゲートのサイト内で試合のライブ配信や練習の様子、試合後の選手インタビューなどを紹介。それを見たファンは、サイトからメッセージやデジタルギフトを贈ることができる。デジタルギフトの贈り主には部員が感謝の言葉を必ず返すようにしている。4月末時点で、チームと選手合わせて4万5900ポイントを獲得した。

同部主将の朝野翔一朗選手（体専4年）は「ギフトや応援コメントを通じ、ファンの熱量を感じる。選手モチベーションの向上につながっている」と話す。その他の部も、大会結果や日々の活動を順次エンゲートで紹介している。

ADの山田晋三副アシスタントディレクターは導入の狙いについて、「筑波大には大学スポーツを応援してくれる卒業生がたくさんいる。エンゲートを卒業生と選手をつなぐきっかけにしたい」と話した。

また、エンゲート社の城戸幸一郎社長は「部費を払うためにバイトをする学生がいると聞いた。部費をギフトで賄い、選手がスポーツに集中できる環境を整えられるようになればいい」と語り、イベント開催など、ファンとの関係構築に向けた提案をADに行っていく考えを示した。

ADは7月にも「エンゲート」の説明会を開き、導入する運動部を増やしていく方針だ。（天野隼太

## 広告掲載欄

(紙面のみでの掲載となります)

広告のお問い合わせは

電話 029 - 853 - 6699

Eメール shinbun@un.tsukuba.ac.jp

(筑波大学新聞へのご意見・お問い合わせも上記までお願いいたします)



# 日本選手権 3位入賞 飯塚 後半追い上げ



写真: YUTAKA/アフロスポーツ

**水泳競技**  
第97回日本選手権が4月30日に東京アクアティクスセンター(東京都江東区)で開かれた。東京五輪代表選考会も兼ねていたが、代表に内定した筑波大の選手はいなかった。4日の100メートルバタフライ決勝では、飯塚千遥(体専3年)が58秒26で3位入賞を果たした。前半50メートルは7位だったものの、後半は出場者8人中1位のタイムで泳ぎきった。2月のジャパンオープン2020で優勝した際に出した自己記録を0・11秒更新した。

6日の200メートル個人メドレー決勝では横田早桜(同4年)が5位に入賞した。また、10日の50メートルバタフライ決勝では新野杏奈(同4年)が7位となった。

## 58秒26の自己記録で

自己記録を更新した飯塚は「緊張しすぎないよう、五輪代表内定ではなく自己ベスト更新を第一の目標にしていた。後半に強い自分の持ち味を生かした」とレースを振り返った。練習では試合を想定したペース配分を意識しながら泳ぎ、前半で体力を温存する感覚を磨いてきた。少しずつこれらの練習の成果が出てきているという。

課題は前半50メートルのスピードアップだ。これまでは、スタートや入水後の浮き上がりを中心に練習してきた。今後は、短距離を繰り返して泳ぐなど負荷の高い練習も取り入れ、体力の向上を図りたいと話した。(及川千翔)

# 東京医療保健大に敗れ準優勝

## 関東大学女子選手権

バスケットボール選手権  
71大学が争う関東大学女子バスケットボール選手権大会が4月24日から5月9日に開催された。2018年の優勝以来3年ぶりに決勝進出を果たしたが、東京医療保健大に63-74で破れ、準優勝に終わった。東京医療保健大はインカレ4連覇中。筑波大は昨年のインカレで、33点差をつけられ完敗していた。

第1クォーター開始直後は、両チームが3Pシュートを決めるなど互いに譲らない展開となった。だが、8分が経過した頃から相手のシュート数が増え始めた。増田泉美(体専2年)がシュートを決めるも、17-21とリードを許した。

第2クォーターでは、山田葵(同1年)や大澤海(同3年)のシュートで同点に追いつき、中盤には相手ディフェンスの合間を縫う出原菜月(同4年)のドリブルシュートで25-23と逆転した。だが、その後は3Pシュートを決められて再度リードされ、さらに連続得点を許した。開始6分半に権島ほたる(同4年)が3Pシュートを決めるも、32-36で前半を終えた。

第3クォーターは序盤で8点差まで広がられたが、荻田美(同1年)の3Pシュートで点差を縮めた。筑波大はその後も食らいつき、51-55とまたも4点差で第4クォーターへ突入。相手のファウルで獲得したフリースローを荻田が確実に決め、1点差まで詰めた。

主将の権島は「優勝を目指していたため、準優勝という結果は悔しい。今回課題だと感じたシュート成功率とリバウンド取得率を上げて、次の試合に備えたい」と話した。(細井真生)

# リーグ戦今季初連勝

## 「成長を感じられる試合だった」

### サッカー



正確にパスを回す森(5月2日、RKUフットボールフィールドで)

5月2日の第5節は桐蔭横濱大と対戦。雷雨で予定から2時間遅れた午後4時のキックオフとなった。筑波大は第4節の駒澤大戦に勝利しており、今季初3日から開催されている。筑波大は3勝3敗の6位(5月15日現在)につけて

大がペースを握った。だが、ゴール手前までドリブルで持ち込んでも、相手の好守に阻まれシュートを打てない展開が続く。0-0で終えた。小井正亮監督(体育系・助教)は「天皇杯予選での連戦で疲れがあり、大きなチャンスを作れなかった」と振り返った。

後半も筑波大がボールを支配。山原怜音(体専4年)のクロスボールが相手のハンドを誘ってPKを獲得。それを森海渡(同3年)が冷静に決め、50分に先制した。その後三浦雅人(同3年)がペナルティエリア内で倒されてPKを獲得し、63分に森が2点目を挙げた。その後も積極的なプレーが続く、相手に得点を許さず2-0で勝利した。

山原は「全体的に主導権を握れた試合だったが、前半は得点できなかったが、後半は2-2で延長戦に突入。延長後半、相手のコーナーキックから失点し、そのまま試合は終了した。」(細井真生)

天皇杯予選敗退  
天皇杯全日本選手権茨城県代表決定戦の決勝が5月9日にひたちなか市総合運動公園陸上競技場(茨城県ひたちなか市)で開催された。筑波大は流通経済大と対戦。2-3で惜敗し、2年連続の天皇杯本選出場はならなかった。

前半は2得点を先行されたが、後半7分と38分に森海渡(体専3年)がゴールを決め、追いついた。試合は2-2で延長戦に突入。延長後半、相手のコーナーキックから失点し、そのまま試合は終了した。

柔道  
全日本選抜体重別選手権  
4月3、4日に福岡国際センター(福岡市)で行われ、男子66キログラム級に田中龍馬(体専2年)が初出場。初優勝を果たした。

田中は初戦で、2019年の世界選手権金メダルの丸山城志郎と対戦予定だったが、丸山がけがで欠場し、不戦勝となった。続く準決勝では昨年の講道館杯3位の武岡毅(國學院大)と対戦。相手に技をかけさせる隙を与えず、最終的に試合を進めた。延長戦で延長戦に。延長約2分で相手に後襟を取られたところを肩車で返し、技ありで勝利した。

66キログラム級田中初優勝  
全日本選抜体重別選手権  
4月3、4日に福岡国際センター(福岡市)で行われ、男子66キログラム級に田中龍馬(体専2年)が初出場。初優勝を果たした。

田中は「自分の強みである、攻め続ける柔道ができて良かった」と話した。一方で、「技の決定力不足という課題も見た。足技を磨くとともに、フィジカルも継続的に強化し、確実に技を決められるようにしたい。パリ五輪に向け、丸山選手や東京五輪代表の阿部一二三選手を超える存在を目指して頑張りたい」と今後の目標を話した。(寺尾優汰)

# スポーツ顔

## ラグビー



パワーとスピードを武器に鮮烈デビュー  
谷山隼大 (体専2年)

ラグビーの密着戦では、ボールを奪いに来た相手選手が脇の下に腕をかけた。谷山は「自分が強みである、攻め続ける柔道ができて良かった」と話した。一方で、「技の決定力不足という課題も見た。足技を磨くとともに、フィジカルも継続的に強化し、確実に技を決められるようにしたい。パリ五輪に向け、丸山選手や東京五輪代表の阿部一二三選手を超える存在を目指して頑張りたい」と今後の目標を話した。

「トライを決められる選手に」  
小学校卒業時に相撲はやめたが、「ラグビーの練習がない平日も体を動かす」と話した。

今年3月に右肩を負傷し、グラウンドでの練習は十分にできていないが、スピード強化のためのレッグプレスやスクワットなど足腰の筋力を鍛えるトレーニングに地道に取り組んでいる。目標は「4年時に大学日本一になること」。新たな力を身につけて復帰後に活躍することを誓った。(車谷都美II社会学類2年、写真は本人提供)

# スポーツ・デー3回連続中止

## 宿舍祭も厳しさを続く行事開催

筑波大の恒例行事が2年続けて中止に追い込まれている。5月15、16日に開催予定だった第45回春季スポーツ・デーは4月30日、急きょ中止が発表された。新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、各学類・専門学群から選出された教員や体育センターなどからなるスポーツ・デー運営委員会が決定した。例年5月末に行われる第47回宿舍祭(やどかり祭)も、3月に中止が発表されていた。

(及川千翔、北川瑠菜、12面に関連写真)

スポーツ・デーは例年、での中止となった。昨年も約5000人の学生・教職、春・秋両方が中止されてお員が参加してスポーツを楽しみ、3回連続となった。

スポーツ・デー学生委員会はコロナ禍での開催を実現するため、半年以上前から準備をしてきた。会場の混雑を避けるため、参加を

希望していた約4000チーム3000人から、抽選で228チーム15000人ほどに参加者を絞る予定だった。

また大人数が集まる開閉式は取りやめ、参加者はプレー中のマスク着用を義務づけていた。

宿舍祭では例年、学生が飲食物を販売する屋台を出したり、「ゆかたコンテスト」などのステージ企画を実施したりする。

第47回筑波大学宿舍祭実行委員会は今年、来場者を学内関係者に限定して開催する方針だった。飲食は決められたエリアのみで認め、食べ歩きは禁止した。

だが、大学側から「飲食を伴う開催は厳し」と伝えられたことや、コロナ禍の収束が見通せないことから3月19日に中止を発表した。オンライン開催も検討したが、準備期間が足りずイベントの質を担保することが難しいと断念した。

# 今年の経験生かし新歓工夫

## 新歓祭本祭はYouTubeで

コロナ禍が収まらないまま迎えた2年目の春。今年の新生歓迎活動(新歓)では、昨年の経験を生かした新しい取り組みが目立った。4月5日には、新生歓迎祭本祭(新歓祭本祭)が初めてオンライン開催された。学生団体は、実際に活動を体験できる対面型新歓とオンライン交流会やSNS(ネット交流サービス)での情報発信を組み合わせ、昨春よりの活発な新歓を運営している。コロナ禍に負けまいと、新しい課外活動のあり方の模索が進む。(細井真生、北川瑠菜、車谷郁美)

### 新生に情報届ける

新生歓迎祭推進委員会(新推委)は、143団体が参加する新歓祭本祭をYouTubeで生配信した。「文化系サークル」や「一般団体」など七つのグループに分け、1団体当たり約7分の持ち時間でスライドや動画を使った団体紹介を実施した。アーカイブも公開された。

新推委の伊藤香翠委員長

### 新規サービスで支援

筑波大の学生団体の新歓情報がまとめられたウェブサイトに「新歓Web」に4月4日、検索機能などが追加された。

検索機能では、日時と

11月5〜7日に開催予定の第47回筑波大学学園祭(雙峰祭)が、初のオンライン開催になる見通しとなった。

学園祭実行委員会(学実委)

は当初、通常開催を見据え準備を進めていた。だが新型コロナウイルスの感染が収まらない現状を踏まえ、大学側と協議してオンライン開催を決めた。通常開催は状況次第で突然中止となるリスクが高く、確実に開催することを優先した結果だという。

# 雙峰祭オンライン開催へ

## 史上初「より開かれた学園祭に」

学実委によると、雙峰祭のウェブサイトで学生団体の公演・発表をオンデマンドや生配信で公開する計画という。

学実委委員長の芳賀力さん(日2年)は「大人数のアクセスに耐え得るウェブサイトを

作るための技術的問題など、オンライン開催に向けての課題は山積みだ。誰でも手軽にアクセスできるなどオンラインの強みを生かして、より開かれた学園祭を目指したい」と話した。

(寺尾優汰)

# 留学生の声

ウェスターニローション・ウァーレンさん(生物資源学類)

「憧れの日本で水をきれいにできる藻類の研究をしたい」。昨年9月に入学し、生物資源学類で藻類について学ぶ。イランの首都テヘラン出身。幼少期から「ことなりのトロロ」や「リッソルの涙」など、日本のアニメやドラマに慣れ親しんできた。親日国とされるイランでは1980年代から、日本の名作ド

約制とした。「3密」を避けるため1回あたりの参加者を3、4人に制限した。

また、参加者の学類や氏名を記入する活動記録表も作成し、感染者が出た時に連絡が取れるようにした。

邦楽部代表の高橋奈央さん(比文3年)は「昨年はオンライン新歓しかできなかった。実際に楽器に触れてもらえ、入部を決めることができました」。

北川瑠菜さんは「北川瑠菜さん(比文3年)は「昨年はオンライン新歓しかできなかった。実際に楽器に触れてもらえ、入部を決めることができました」。

# 「藻類の研究で貧困無くしたい」

日本の大学に進学する際には英語で理数系の試験を受ける必要があったが、受験に励む必要がなくなった。韓国や中国のドラマも見たが、日本の作品が一番好きだった。美しいメロディのように聞こえる日本語の響きが大好きだったからだ。

「いつかペルシャ語の字幕なしで日本の作品を見られるようになった」。昨年9月に入学し、生物資源学類で藻類について学ぶ。

イランの首都テヘラン出身。幼少期から「ことなりのトロロ」や「リッソルの涙」など、日本のアニメやドラマに慣れ親しんできた。親日国とされるイランでは1980年代から、日本の名作ド

高校の時「日本に留学したい」と本格的に考え始めたが、壁にぶつかって断念した。

「藻類の研究で貧困無くしたい」。イランでも、わずかな穀物で飢えをしのぐ人が多くいる。番組を見て初めて格差問題を身近に感じ、藻類を研究することを知り、今後は藻類で水をきれいにする方法を研究していきたいと考えている。「水は生活に欠かせない。水道が整備されておらず、汚れたままの水を飲み、命を落とす子供が世界にはまだまだたくさんいる。藻類の研究をすることで、こういった問題を解決したい」と話した。

卒業後は大学院に進学し、将来は研究者になることも視野に入れていく。藻類の可能性が広がっていくように、彼女の可能性も無限だ。(小菊日怜媛II社会学類2年、写真は本人提供)

### オンラインカフェ

コロナ禍での交流を図る。コロナ禍での学生の交流を図ろうと、学生相談室は毎月第2、第4月曜日の午前11時半から「Remo」でつながろうオンラインタイムカフェを開いている。学生や相談室のカウンセラーが勉強や趣味、自炊生活のコツなど関心のあるテーマについて、オンラインで会話する。

### 感染対策講じ体験会

筑波大学邦楽部は4月12日から5月1日に文化系サークル会館で対面の楽器演奏体験会を9回開催し、計40人が参加した。

### 対面とオンライン併用

筑波大学新歓祭は、対面とオンラインの併用で新歓に臨んだ。

4月6〜29日にはオンライン会議システム「Zoom」で座談会を8回開催。7日には、新歓Webと

遅れた昨年12月に来日。卓球とバドミントンのサークルに入るなど、日本での生活を満喫中だ。藻類への関心も広がっている。藻類が汚れを分解し、水を浄化することを知り、今後は藻類で水をきれいにする方法を研究していきたいと考えている。「水は生活に欠かせない。水道が整備されておらず、汚れたままの水を飲み、命を落とす子供が世界にはまだまだたくさんいる。藻類の研究をすることで、こういった問題を解決したい」と話した。卒業後は大学院に進学し、将来は研究者になることも視野に入れていく。藻類の可能性が広がっていくように、彼女の可能性も無限だ。(小菊日怜媛II社会学類2年、写真は本人提供)

### 途上国支援で

筑波大生から不要となった教科書などを寄付してもらい、必要な学生に定価の半額でオンライン販売する企画を「STUDY FOR R.TWO」の筑波大支部が4月8〜20日に実施した。約350冊用意し、13人に17冊を販売した。売り上げは約3万円、このうち8割を途上国の子供たちの教育支援に充てる。

### 使用済み教科書販売

「STUDY FOR R.TWO」は全国41大学に支部がある一般社団法人。筑波大支部は2019年に設立され、初年度はつくば市内の会場で開催された。昨年はコロナ禍のため対面販売を見送り、10月にオン

### オンライン支援で

「STUDY FOR R.TWO」は全国41大学に支部がある一般社団法人。筑波大支部は2019年に設立され、初年度はつくば市内の会場で開催された。昨年はコロナ禍のため対面販売を見送り、10月にオン

### 比較文化学類3年

梅津拓人II

比較文化学類3年



新歓Webの検索画面(5月19日、本紙編集室で撮影)。車谷郁美さんが参加した。対面の練習会はつくば市体育館で4月7



邦楽部の演奏体験会に参加する新生(5月1日、文化系サークル会館)。北川瑠菜さん(比文3年)は「昨年はオンライン新歓しかできなかった。実際に楽器に触れてもらえ、入部を決めることができました」。

# 人数制限し2年ぶりの入学式

## コロナ2年目のキャンパス 宿舍入居・健康診断も分散で



入学式の式典の様子=広報室提供

対面授業の教室に向かったり、芝生で友人と会話したり。新型コロナウイルスの感染収束が見通せない中、今春のキャンパスでは、新生活が行き交う姿が見られるようになった。かつての日常を取り戻すまでは至らないが、今年度は感染対策を講じた上で、入学式や健康診断など新生活向けの恒例行事は例年に近い形で実施された。(小栗あおい) 社会学類2年、北川瑠菜、工藤和哉、12面に関連写真

### 入学式は歌唱なし

入学式は4月5日に大学会館で実施され、学群生約2000人、大学院生約1640人が出席した。式典は学群、大学院ともそれぞれ2回に分けて実施された。大学院の入学式は元々1回だったが、会場及びステージ上の「3密」を防ぐため、学群と同様に2回に分けられた。

主会場の講堂では、参加者の距離を保つため、各回とも参加人数を収容定員の半分の約800人とした。入りきれなかったりした学生はホールなどで式典のライブ中継を見た。全4回の式典の合同に全ての座席をアルコール消毒した。恒例となっていた学生歌「常陸野の」やメッセージソング「IMAGINE、THE FUTURE」未来を想

### 入居前日に荷物搬入

学生宿舎の1号入居は4月3、4日に実施され、新生903人が入居した。各棟の受付時間を別々に指定して入居者の集中を防ぎ、会場では検温を徹底するなどの対策をとった。例年は新生活が部屋の鍵を受け取った後、事前に送った荷物を業者が部屋に運び込んでいた。今年度は混雑を避けるため、業者が入居前日に搬入した。この歌唱は飛沫感染の恐れから中止した。出席した看護学類1年の女性は「入学式の場合が設けられたことで、大学生活が始まる実感が湧いた」と語った。

### 時間指定で分散受診

学生定期健康診断は4月13、27日に保健管理センターなどで実施された。健康診断は血圧測定や内科診察などの身体検査と、既往症や生活習慣、心の健康状態などを尋ねる問診からなる。非正規学生(研究生など)を含む全学生の約51%が参加した。受付では手指消毒とサーモグラフィカメラでの検温を実施。密集を避けるため、所属や学年ごとに時間を指定した。滞在時間短縮のため、血圧や視力、尿検査は希望者のみとした。昨年度は5、6月に学習管理システム「manab

## 中央図書館視聴ブース更新

### 利用者アンケート受け

筑波大附属中央図書館の視聴ブースが今年3月、更新された。ブースの数を六つから四つに減らす一方、各ブースの机を大きくし、以前はほとんどなかった作業スペースを確保した。また、座席を囲むように高さ約1.5mの仕切りを設置し、人目が気にならないよう



新しくなった視聴ブース(5月7日、中央図書館2階で)

視聴ブースが今年3月、更新された。ブースの数を六つから四つに減らす一方、各ブースの机を大きくし、以前はほとんどなかった作業スペースを確保した。また、座席を囲むように高さ約1.5mの仕切りを設置し、人目が気にならないよう

更新は2018年6月に附属図書館が実施した利用者アンケートの意見を受けて計画された。筑波大の学生・教職員から797件の回答があり、不便を感じる点や改善してほしい点について、「視聴ブースで人目が気になる」との意見が75件寄せられたという。これを受け、附属図書館では視聴ブースを更新する予算を大学に要求し、21年3月に認められた。ブースには新型コロナウイルス感染症対策のため共用ヘッドフォンを置いていない。持っていない場合はカウンターに申し出るよう案内している。附属図書館アカデミックサポート課の担当者は「より快適に利用できるようになったブースをぜひ活用してほしい」と話した。(及川千翔 写真)

## 学生同士で趣味の会話楽しむ

### 筑波大生専用アプリ提供

筑波大は3月2日、学生支援アプリ「CibbyLink」と「FreeLink」の無料提供を始めた。CibbyLinkは学生の悩みへのアドバイスを提示し、LifeLinkは共通の趣味を持つ筑波大生同士が文面で交流する機会を提供する。筑波大生以外もアプリに登録でき、初期設定には学生用のメールアドレスが必要。パソコンでの使用が推奨されているが、スマートフォンでも利用できる。(工藤和哉)

回答内容は心理学を専門とする筑波大の教員らが確認し、偏った意見にならないようにした。自分の悩みに当てはまる回答ページがあればアプリから回答をリクエストもできる。同じ悩みを抱えている学生が他にもいることを知ってもらったため、回答を閲覧した学生が何人いるのかも表示している。

筑波大発ベンチャー「World Life Mapping」が開発した。CibbyLinkでは、自分の悩みに当てはまる回答ページを探

「World Life Mapping」が開発した。CibbyLinkでは、自分の悩みに当てはまる回答ページを探

する回答が表示された。LifeLinkでは、毎週火・金曜日の午後9時11時に「コネクト時間」が設けられる。好きなスポーツ、漫画などの趣味を登録すると、興味や関心の近い筑波大生と1対1で最大12分間、文面で会話できる。トラブルを防止するため、相手と対面では禁止。LifeLinkを利用した工学システム学類3年の学生は「漫画『呪術廻戦』のストーリーについて12分間話した。筑波大生同士で共通の話題で盛り上がり、楽しかった」と話した。筑波大は、アプリを導入



陸上同好会 tanbo

5月初旬の涼しい屋下がり。筑波キャンパスの陸上競技場から「ファイト」「がんばれ」と爽やかな掛け声が聞こえてきた。数人でトラックを周回したりハードル走や投てき練習をしたりする筑波大学陸上同好会メンバーの姿があった。



長距離走をするメンバー(5月8日、筑波大陸上競技場で)

## 筑波大学陸上同好会

も、明るく声を掛け合うのが習慣だ。休憩中は学群1年生から大学院生までが一緒に談笑する。マスク越し

取り組む種目は違っていても、明るく声を掛け合うのが習慣だ。休憩中は学群1年生から大学院生までが一緒に談笑する。マスク越し

## 目的は違えど陸上への愛は同じ

陸上競技は走る・跳ぶ・投げるの三つに大分される。同好会には短・中・長距離走の他、走り高跳びや距離種目、やり投げなど投てき種目を専門とするメンバーがいる。同好会には約160人が所属し、主に陸上競技場で週4回2時間ほど練習する。毎回40人前後が集まる。関東圏の大学の陸上競技サークルが参加する大会にも出場する。

同好会の特徴は活動の体調や自分に必要な練習を考え、同じ種目の先輩など周囲の助言も得ながら、練習すること。大きなタイミングで抜けストレッチなど個人練習に移ることもできる。大

せない一体感が伝わってきた。陸上競技は走る・跳ぶ・投げるの三つに大分される。同好会には短・中・長距離走の他、走り高跳びや距離種目、やり投げなど投てき種目を専門とするメンバーがいる。同好会には約160人が所属し、主に陸上競技場で週4回2時間ほど練習する。毎回40人前後が集まる。関東圏の大学の陸上競技サークルが参加する大会にも出場する。

自由さだ。練習メニューは個人で好きに選べる。その日の陸上競技は走る・跳ぶ・投げるの三つに大分される。同好会には短・中・長距離走の他、走り高跳びや距離種目、やり投げなど投てき種目を専門とするメンバーがいる。同好会には約160人が所属し、主に陸上競技場で週4回2時間ほど練習する。毎回40人前後が集まる。関東圏の大学の陸上競技サークルが参加する大会にも出場する。

自由度の高さゆえ、陸上同好会には多様なメンバーが集まる。陸上競技経験のない初心者もいれば、小学生から陸上を続け、大会で優秀な成績を残した実力者もいる。仲間との交流がしたい、記録を追い求めたい、健康維持や気分転換のため運動がしたいなど、目的もそれぞれだ。眞保温知主将(日目3年)は大学で陸上を始め、短距離走に取り組んでいる。メンバーの多くが経験者で、入会当初は不安だったが、初心者も自然に受け入れ練習をサポートし合う雰囲気がある。一方、新入生の鈴木終さん(応理1年)は高校時代、関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会

の3段階で16位になった経験がある。陸上競技部への入部も考えたが、学業との両立が難しいと判断し、同好会への加入を決めた。来夏までの自己ベスト更新が目標だ」と話した。昨年度は新型コロナウイルスの影響で目指す大会が全て中止され、大学からの課外活動自粛要請で対面練習も一時できなかった。現在は感染対策を取った上でほぼ従来の活動をしている。眞保主将は同好会のモットーを「みんなが陸上を楽しみながら各自がレベルアップすること」と語る。メンバーは十人十色だが、皆が陸上競技と同好会への愛情を持ち、今日も競技場に集う。(小栗あおい) 社会学類2年、写真)

## 広告掲載欄

(紙面のみでの掲載となります)

広告のお問い合わせは

電話 029 - 853 - 6699

Eメール shinbun@un.tsukuba.ac.jp

(筑波大学新聞へのご意見・お問い合わせも上記までお願いいたします)

# Who's Who?

### K d Bの代替システムを3時間半で開発

## 和田 優斗 さん (メ創1年)



新たなプログラム開発に向けて意気込む和田さん=本人提供

履修登録の最中に授業データベース「教育課程編成支援システム」(K d B)の利用が突然停止された今年度春学期。入学間もない新入生にもかかわらず、わずか3時間半で代替システムを作成・公開し、登録に悩む筑波大生の救世主となった。代替システムのURLを「K d Bもどき」として公開した4月11日のツイートには1.6万いいねが付き、約6000リツイートされた。「有能すぎ」「圧倒的感謝」などの称賛が相次ぎ、ネットメディアでも取り上げられるなど時の人。

筑波大の開校授業は約7000科目。K d B停止で自分も履修科目を紙媒体で探す必要に迫られ、代替システムを作った方が早いと思いついた。「筑波大生にも使ってもらおうと考えていた」と振り返る。K d Bには、Excel形式などで科目データを一括ダウンロードする機能がある。利用停止前にダウンロードされ、ネット上で公開されていた科目データを元に代替システムを作成した。プログラムのソースコードも同時に公開したことで、他の学生も開発に参加できるように

なり、新たな機能の搭載やバグの修正も急ピッチで進んだ。開発に参加したメンバーを中心に筑波大学を便利にする会というサークルを作り、新アプリの開発も進めている。若い頃からインターネットに触れるうちに、ウェブページなどを作る側になりたいと思うようになった。小学4年でプログラミングの独学を始めてすぐに、日々の出来事をつづったウェブページを自作した。「自分の書いたプログラムが形になることに楽しさを感じた」一方で、技術の未熟さも痛感し、プログラミングの世界に「一層のめり込んでいった」。

## 「K d Bもどき」で筑波大生救う プログラムで今後も貢献したい

技術は一通り身に付けた」がもっと学びたいと考え、科学教育推進を掲げる横浜サイエンスフロンティア高校に進学。プログラムの実行速度や性能を競う競技プログラミングに挑戦し、高校2年で第19回日本情報オリンピック本選に出場した。だがライバルたちのレベルの高さに圧倒された。「高度な数式を使う彼らのプログラミングはまねできないと感じた」と語る。競技プログラミングからは離れ、実用的なプログラムの開発に取り組む方向に転換した。

高3年時の5月、早速その成果が出た。天才的なIT人材の発掘を目指す情報処理推進機構の「未踏事業」に採択された。多彩なグラフィックデザインと高度な組版を可能とする日本語組版処理システム「Twitht」の開発を提案し、開発費約270万円が支給された。既存のシステムより簡単なプログラムで、装飾性の高い文字

をデザインできるといった。パソコンを使ってポスターのデザインをした際に、文字の装飾とレイアウトの調整に不便さを感じたことが開発のきっかけだ。近日常公開予定で、多くの人に利用してほしいと話す。

筑波大を進学先に選んだのは「落合陽一准教授や登大遊産学連携教授など、優れたプログラマーを多く輩出している環境で学びたいと思った」から。情報メディア創成学類は芸術とプログラミングを扱っており、やりたいことにぴったりだった。情報系の授業の他に芸術学群が開設する授業も履修している。

将来は研究者の道に進むつもりだ。「学類がK d B代替システムの利用を推奨するなど、筑波大は学生が開発したものを応援してくれる。代替システムの他にも、筑波大生や先生方の役に立つプログラムを開発していきたい」と熱意を見せた。(山田優芽=比較文化学類2年)

次号は  
**7月19日(月)**  
発行予定です

印刷：ヒラマ写真製版  
発行所：筑波大学

編集後記  
気がつけば3年生。進路の学問分野にまたがる広い視野が必要だ」と話しました。就活情報サイトをアクセスすれば、「あなたが大学生活で一番力を入れたことは何ですか」という質問から逃れられませんが「これまで学業に加え、アルバイト、そして本紙での活動に精を出してきました。二本の軸を持たなければ」と思いつつ、いろいろなることに手を出してしまっています。そして一つの事に突出した能力のある人を見つけたことに挑戦する気持ちを感じていました。と、編集長・大和祐菜(比較文化学類3年)と和祐菜(比較文化学類3年)は編集部員14人

## ゲノム編集トマトの苗配布



ゲノム編集トマトの実と苗(4月23日、総合研究棟Aで) = 大和祐菜撮影

2面へ

## バドミントン春季リーグ



果敢に攻める青木(左)・長廻ペア(4月25日、水郷体育館で) = 工藤和哉撮影

8面へ

## スポーツ・デー急きょ中止



3回連続の中止となったスポーツ・デー参加者募集の横断幕(4月30日、桐葉橋で) = 北川瑠菜撮影

10面へ

## 健康診断実施



検温や消毒などの感染対策が取られた健康診断(4月18日、大学会館で) = 北川瑠菜撮影

11面へ

学内総合

スポーツ

学生生活

学生生活

### 編集後記

### 編集・発行

総合学域群を特集しました。山中弘学域群長は「社会の課題の解決には、複数の学問分野にまたがる広い視野が必要だ」と話しました(6面)。また「なでしこジャパンとして世界一に輝き、選手と大学教員を両立させる安藤裕さんは「研究とサッカークラブが互いに良い影響を与えている」と言います(2面)。

▼委員長 土井隆義(人文社会学系・教授) 社会学  
▼副委員長 関瑞穂(学生部長) 委員 逸村裕(図書館情報メディア系・教授) 図書館情報学、清水論(体育系・教授) スポーツ社会学、菅谷純子(生命環境系・教授) 果樹園芸学

▼筑波大学新聞編集部  
▼編集代表 鴨志田公男(筑波大学・教授) サイエンスコミュニケーション  
▼編集長 大和祐菜(障害科学類3年) ▼副編集長 北川瑠菜(比較文化学類3年) ほか編集部員14人